札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会　　平成 28 年 10 月 26 日発行　第 34 号

とよひら・りんく NewsLetter

発行　札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会　「とよひら・りんく」事務局

パネルデイスカッションの様子

平成28 年度　第 3 回合同会議(学術講演会)を開催

平成 28 年 10 月 7 日（金）19：00～20：45（豊平区民センター）

平成 28 年度、第 3 回合同会議（学術講演会）を開催いたしました。

医療・介護関係者等、61 名が参加されました。

テーマ「医療現場におけるアドバンス・ケア・プランニングの実践と課題を考える」

【用語解説】ＡＣＰ「アドバンス・ケア・プランニング」

今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス。

－患者が望めば、家族や友人とともに行われる。

－患者が同意のもと、話し合いの結果が記述され、定期的に見直され、ケアにかかわる人々の間で共有されることが望ましい。

－ＡＣＰの話し合いは次の内容を含む。・患者本人の気がかりや意向　・患者の価値観や目標

・病状や予後の理解　・治療や療養に関する意向や選好、その提供体制

（参考：E-FIELD　平成 27 年度人生の最終段階における医療体制整備事業　研修会　資料）

「高齢者における疼痛管理とチーム医療」

西岡病院　内科医長　澤田　格　先生

「高齢者における疼痛管理とチーム医療」についてお話をしていただきました。

高齢者の肺癌患者の症例をもとに、医師としての説明、本人・ご家族の気持ちの変化などの経過について、多職種で共有して関わる必要性についてご指摘いただきました。

澤田　格　先生

アンケート結果（一部）

・多職種による評価の重要性が分かりました。（薬剤師）

・ACP シートの内容（何をどう確認していくのか等）、各部門の連携について参考になりました。（医療ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ）

・ACP 相談シートのチーム医療としての活用について、家族との共有について参考になりました。（病院事務管理職）

「医療現場におけるアドバンス・ケア・プランニングの実践と課題を考える ～在宅医療の立場から」

静明館診療所

医師　大友　宣　先生

在宅医の立場からＡＣＰの実践と課題についてお話しいただきました。

医療現場において（外来含め）、人生の最終段階についての話し合いの重要性のほか、在宅での看取りの症例を通して、ＡＣＰについては「聴き続ける、話し続けることが重要」「結論よりもプロセスや葛藤を伝達する」等、ご指摘いただきました。

大友　宣　先生

アンケート結果（一部）

・思いと結果は違うということがその通りだと思いました。（医師）

・最期までかかわりを持つこと。関わり方で在宅死が増えたことが参考になりました。（看護師）

・結論を急がないということを忘れないようにしたいです。（薬剤師）

「医療現場におけるアドバンス・ケア・プランニングの実践と課題を考える ～急性期病院の立場から」

国立循環器病研究センター
看護師　高田　弥寿子　先生

「慢性心不全におけるアドバンス・ケア・プランニングの意義と留意点」について、厚生労働省事業とその後の取り組みについて、実際の急性期病院の看護師の立場からお話ししていただきました。増悪と治癒を繰り返す中での関わりの難しさなどから、支援の継続性についてご指摘いただきました。

高田　弥寿子　先生

アンケート結果（一部）

・慢性心不全をみる医療者の悩みに共感しました。最初に急性増悪して、回復したときが色々と話しやすいと思っています。（医師）

・ACP の病態差が勉強になりました。（薬剤師）

「医療現場におけるアドバンス・ケア・プランニングの実践と課題を考える ～腫瘍病棟の看護師の立場から」

ＫＫＲ札幌医療センター
看護主任　田島　瑶子　先生

肺癌の症例を紹介していただき、多職種でのカンファレンスの様子やご本人、ご家族との治療方針などの共有について実際の場面設定やご本人の言葉などをもとにお話ししていただきました。多職種での関わりでより患者・家族に寄り添ったケアにつながる点についてご指摘していただきました。

田島　瑶子　先生

アンケート結果（一部）

・肺癌治療現場での ACP の実践が聞けました。（医師）

・色々な職種がみんな、ACP 記録して共有できるのは素晴らしいと思いました。医師含めてカンファレンス（臨床倫理 4 分割など）できると良いですね。（医師）

「医療現場におけるアドバンス・ケア・プランニングの実践と課題を考える ～弁護士の立場から」

札幌総合法律事務所
弁護士　福田　直之　先生

医療現場における自己決定として弁護士の立場からお話ししていただきました。

自己決定権の解釈や法的問題、限界などについて、ご指摘していただいました。日常からの対話の重要性や客観性担保の重要性（書面化、記録化）についても助言をいただきました。

福田　直之　先生

アンケート結果（一部）

・法と医療とどちらからみても思いは同じとわかって安心しました。（医師）

・自己決定権とはいうものの、今の高齢者、特に認知症という病気を持っている方々は「本人」というより「家族」の選択に頼ることが多いので、いつも悩みます。（看護師）

パネルディスカッション

座長　ＫＫＲ札幌医療センター　病院長
磯部　宏　先生

・最終段階の話はスキルを持った人、コミュニケーション能力を持った人でなければ…なるほど。自分もスキルアップを心がけたいと思いました。（看護師）

・医師をどのように誘導していくのか。どう引き込むのか等。当院でもその問題に直面する場面が多いため、参考になりました。（医療ソーシャルワーカー）

とよひら・りんく事務局　西岡病院　地域連携室　岡村・田附・横田　　ホームページ：http://www.toyohiralink.jp/
電　話 011-853-8322（平日 9－17 時）　メールアドレス：info@toyohiralink.jp